

美術科学習指導案

実施期間 平成21年10月6日(火)
～12月17日(木)

実施学年 第1学年

指導者 久保田 裕

I 題材名 「だるまに願いを」(鑑賞・表現)

II 題材の考察

1 生徒の実態

生徒は、これまでに「色彩の魅力①(色の整理)」(1年1学期)の学習で、色彩の基本的な知識を身に付け、ポスターカラーの特徴を理解し、適切な使い方を身に付けてきた。

この学習の中で生徒は、絵の具を溶く水の量を変えたり、筆に含ませる絵の具の量を変えたり、筆先のどこを使えば、美しく彩色できるかなどを試しながら、画面に美しく思い通りに彩色することに興味を持ち、その難しさや楽しさを味わいながら、意欲的に取り組んできた。

生徒は、予想したり分かったことを整理したりしながら、色の分類の仕方や性質について理解し、ポスターカラーの特徴を考え、美しく平面構成するための発想・構想をしてきた。

また、ポスターカラーを使い、彩色する部分の広さや細かさに合わせた筆選びや筆使い、均一な色面の彩色、自分の表したい色を作り出す混色などの彩色用具の基本的な扱い方も身に付けてきた。

そして、作品の完成後に作品を見合い、自分の表現の工夫を教師や友達に伝えたり、自分の作品と比べながら友達の作品に関心を持って見たり、よさを認め合ったりする姿も見られた。

しかし、生徒の中には、理解したポスターカラーの使い方や色の性質を生かした配色の仕方を作品の制作で十分に発揮できず、満足感が得られなかったり、できあがりの効果よりも制作に手間のかからない作品を構想したり、ポスターカラーの特性を生かした均一な面の彩色が思いどおりにできないといった生徒も見られた。

また、「自分の言葉で(鑑賞)」(1年1学期)の学習では、資料集の中から自分がよいと感じる作品を選び、どこによさを感じたかを発表し合う活動を通して、様々なよさの感じ方を知り、自分自身の独特の感じ方があることを理解してきた。

この鑑賞活動の中で生徒は、自分がよいと感じる美術作品を選ぶことや、そう感じた理由を発表し合い、自分や友達のよいと感じる感覚を知り合うことに興味を持ち、意欲的に取り組んできた。

生徒は、美術作品のよさを考える中で、構図や色の選び方、主題の面白さ、作品に込められた思いなど作者の発想・構想に着目した美術作品の見方を理解してきた。また、水彩絵の具の透明感を生かした彩色方法の美しさや、不透明ではっきりとした彩色方法の美しさ、筆のタッチから受ける雰囲気の違いなど表現技法の工夫に目を向けた美術作品の見方も理解してきた。そして、自分が感じるよさだけでなく、友達を感じるよさがあることを理解し、見方や感じ方の違いに興味を持って、それを認め合いながら作品を見ることができるようになってきた。

しかし、作品の色や形にどんな作者の思いがあるか考えたり、それがどんな効果を生んでいるのかを考えて作品を味わうまでには至っていない。

2 題材の価値

本題材は、高崎だるまの鑑賞を通して、郷土の美術作品に対する関心を高め、その鑑賞で理解しただるまに願いを色や形で表すという考えのよさを生かし、白色だるまの腹や顔周りの部分に、強調や単純化、絵柄の組合せ方、色の組み合わせから受ける感情効果などを考え、自分の願いを絵柄で表現するための構想を練り、ポスターカラーの特徴を生かして美しく表現できるようにするものである。

だるまは、主に子どもの玩具や縁起物として発達してきた張り子の起き上がり人形であり、現在では願いをかけて身近に飾るものとして人々の生活になじんでいる。そして、高崎だるまは縁起だるまとして上毛カルタにも読まれ、群馬県民にその存在を知られ、家庭や商店などで見かける身近な伝統工芸品

である。この高崎だるまには、色や形で作り手の思いやそれを受け取る人々の願いが表されているのだが、殆どの生徒はそのことを知らない。そこで、だるまをじっくりと眺め、郷土の人々がどんな思いを色や形で表しているのかを考えることにより、思いや願いを色や形で表すよさや面白さを感じることができ、そのことが、自分の思いや願いを色や形で表す意欲へとつながると考える。また、身近な伝統工芸品をじっくりと見て、生徒同士で意見交換しながら、そのよさを考えることにより、新たな気付きや発見が生まれ、身近な郷土の美術文化への関心を高めることができると考える。1学期に実施した題材「自分の言葉で（鑑賞）」で養った様々な視点から作品のよさを感じ取る能力は、本題材において様々な視点からだるまを見つめ、自分の感じ方からよさに気付いていくことや、友達のを聞いて新たなだるまのよさに気付く活動に生かしていくことができる。さらに1学期に実施した題材「色彩の魅力①（色の整理）」において、ポスターカラーを使い画面を美しく彩色する能力は、本題材において自分の表現したい願いにあった色の組み合わせをすることやだるまにポスターカラーで美しく絵柄を表現する活動に生かすことができ、色の性質やポスターカラーの使い方の学習成果を実感できる機会ともなる。そして、だるまを見つめ気付いた色や形で人々の願いを表す考え方のよさは、だるまに自分の願いを色や形で表現する活動につながり、鑑賞で気付いたことを自分の表現に生かせる楽しさを味わえる機会にもなるはずである。

本題材で生徒に芽生えた、人々の思いや願いを色や形で表現することへの興味は、だるまに自分の願いを色や形で表現する意欲へとつながる。また、自分の思いや願いを表すための工夫に、関心を示し、自分の願いを表しただるまを身近に飾ることを考えて制作することにより、表現の楽しさを身近に実感できると考える。

生徒は、まず、だるまの鑑賞を通して、高崎だるまの思いや願いを色や形などで表すよさを理解し、自分の願いを絵柄で表現するために強調や単純化、組合せ方や配置、色の組合せなどを学び、それらを取り入れながら、だるまの形状に合わせ、絵柄を考え描いていく。

生徒は、自分の願いをだるまに表現するために、平面で考えた絵柄を全体のバランスや見え方を考えて微調整しながら、だるまの曲面へと鉛筆で線描していく。そして、ポスターカラーを使い、自分の願いを表すための彩色を施す。このような活動を通して、自分の思いや願いを絵柄に置き換えることや、強調や単純化の方法、絵柄の中心と全体のバランスを考えた配置、色の組み合わせから受ける感情効果、曲面でできた立体への表現の構想の仕方や描画方法、ポスターカラーでの適切な彩色方法を身に付けていく。

学習の中で、生徒は高崎だるまや願いを絵柄で表した作例、自他の作品を鑑賞し、表現の工夫に気が付き、それを自分の表現にも生かしていくようになる。

導入の鑑賞では、だるまを色や形の視点から眺め、よさを感じ、疑問をもち、自分たちのもった疑問の答えを想像し、その考えを伝え合い、高崎だるまの願いを表すよさを理解し、だるまに願いを表すための意欲を持つ。

自分の願いを絵柄に置き換え、組み合わせや配置を考えアイディアスケッチをする場面では、強調や単純化、重ね合わせ、繰り返し、色の様々な組合せ方を工夫していく。

下描き・彩色の途中では、工夫が見られる生徒の作品の鑑賞を通し、そのよさを見付け、認め、共感することで、気が付いたよさを自分の作品にも取り入れていく。

作品完成後の鑑賞では、作品を生徒同士で見合う場を設定し、自分の制作の意図を発表し合い、自分や友達の作品のよさを見付け、認め合い、気付いたよさを賞賛し合うことで、表現の楽しさを味わい、次の表現への意欲を高めていく。

3 題材の系統

表現

実施時期	題材名	目標
1年1学期	色彩の魅力	○ 色彩の基本的な知識を学び、色彩感覚を豊かにすることで、制作

	「色の整理」	や日常生活においての配色に生かす。 ○ ポスターカラーの特徴を理解して、特徴にあった適切な用具の使い方を学び、美しく彩色する。
1年2学期	だるまに願いを (本題材)	
1年3学期	心の中の風景	○ 1年を振り返り、印象深かった出来事や場面、風景などを思い起こし、それらを構成して1枚の絵に表す構想を練り、透明水彩のにじみやぼかし、ひっかき、吸い取りなどの技法やモダンテクニックを使い表現する。

鑑賞

実施時期	題材名	目 標
1年1学期	自分の言葉で	○ 資料集の中から、自分がよいと思う作品を探して理由を考え、発表し合い、様々なよさの感じ方があることに気付き、様々な作品の見方があることを理解する。
1年2学期	だるまに願いを (本題材)	

4 指導上の留意点

- 導入の鑑賞では、色・形・絵柄の三つの視点を示し、高崎だるまのよさを考えることで、だるまのデザインの色や形に着目して、よさや美しさ、表現の工夫を感じ取ることができるようにする。
- 高崎だるまの色や形のよさや疑問を考えた後、そのよさを感じた理由や疑問に対する答えを考えさせることで、人々の思いや願いがだるまの色や形に表れていることに気付かせることができるようにする。
- 個人で考える活動の後に少人数のグループで考えを伝え合う場を設定することで、一人一人が言葉を通して自分の考えを伝え、振り返り、友達の考えから新たな気付きができるようにする。
- 発想・構想の過程では、まず、自分の願いを表現するための絵柄のイメージを広げ、その後、広げたイメージから考えた絵柄を組み合わせて配置し、その配色を考える段階的な発想・構想の過程を設定することで、自分の願いを絵柄でだるまに表現できるようにする。
- イメージを広げるウェビング、絵柄の単純化や強調、繰り返しや左右対称の配置、グラデーション、重ね合わせなどの画面構成の工夫の仕方、色の組み合わせによる寒暖や軽重、対比効果についての学習を取り入れることで、自分の願いにあった作品の発想・構想ができるようにする。
- だるまの下描きの際には、アイディアスケッチとそれをだるまの曲面に描いた下描きを作例で提示し、だるまの曲面に合わせアイディアスケッチを微調整して、下描きすることができるようにする。
- 絵柄の彩色では、ポスターカラーを溶く水の量や混色、筆使いなどのポスターカラーの適切な扱い方を教師が実演して理解させ、自己の意図にあった色を適切に彩色することができるようにする。
- 背中部分から彩色を進め、だるまの曲面や材質に合った彩色のコツをつかませてから、正面部分の細かな彩色をさせることで、だるまの形状や材質に合わせた美しい彩色表現ができるようにする。
- 作品の完成後、生徒同士で作品を見合う場を設定し、振り返り用のワークシートを活用して、制作の意図などを発表し合い、自分や友達の作品のよさを見付け、認め合い、気付いたよさを賞賛し合うことで、表現の楽しさを味わい、次の表現への意欲を高めることができるようにする。

Ⅲ 目標及び評価規準

1 目標

自分の願いを表現するためのだるまを、絵柄やポスターカラーの扱いを工夫してデザインする。

2 評価規準

美術への関心・意欲・態度	願いを絵柄で表現することに興味をもち、願いの表し方を工夫しようとする。
発想や構想の能力	単純化や強調、構成の仕方を工夫して、自分の願いを形や色を効果的に使い表現の構想をする。
創造的な技能	ポスターカラーをだるまの材質や形状に合わせ適切に扱い、自分の願いを絵柄で効果的に表現する。
鑑賞の能力	高崎だるまや完成した自他のだるまを鑑賞して、よさを味わう。

Ⅳ 指導計画（全8時間）

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点	具体的評価規準 ＜観点＞（評価方法）
1	○ 高崎だるまを鑑賞し、思いや願いを色や形を使い、叶えようとする表現の工夫を感じ取る。 ○ 表現課題「自分の願いを絵柄で工夫して表し、だるまに美しく表現する」をつかむ。	○ だるまの色・形・絵柄に着目させ、生徒がよいと感じたことや疑問に思ったことの中から、色や形、絵柄を使い思いや願いを叶えようとしていることや、それを表すために誇張や変形したデザインの工夫があることへの気付きにつながるものを取り上げ、よいと感じた理由や疑問への答えを考えさせる。 ○ 考えをグループで伝え合わせ、共感や新たな気付きを促し、高崎だるまの色や形に願いや思いを託し、表現しているよさを理解できるようにする。 ○ グループでの意見交換で出た考えを全体に発表させ、教師がその考えを整理して、思いや願いを叶えるためにだるまの色や形、デザインが工夫されていることを理解できるようにする。 ○ 表現課題を提示し、自分がだるまに込めたい願いを考えさせ、表現への意欲を高め、高崎だるまのよさを生かした自分の表現の発想・構想ができるようにする。	○ 高崎だるまに興味をもち、色や形の理由を考えようとする。 ＜関心・意欲・態度＞ （活動観察・ワークシートの記述分析） ○ 高崎だるまの色や形を見て、その特徴やよさに気付く。 ＜鑑賞の能力＞ （活動観察・ワークシートの記述分析）
2	○ 自分の願いからイメージを広げ、だるまデザインに入れる中心の絵柄を単純化や強調を使い考える。	○ 高崎だるまの色や形に願いや思いを託し、表現するよさを生かして、自分の願いをだるまの腹部分に絵柄で表現することを伝え、だるまに表したい自分の願いを決めさせる。 ○ ウェブピングにより願いのイメージをふくらませ、願いを表すための絵柄の発想を広げられるようにする。 ○ 自分の願いを効果的に絵柄で表現できるように、単純化や強調を活用した絵柄の作例を提示する。	○ 単純化や強調を取り入れた自分の願いを表す絵柄の発想・構想をする。 ＜発想・構想＞ （活動観察・ワークシートの分析）
3	○ まわりに入れる絵柄を考え、それらを組み合わせ構成し、アイディアスケッチを描く。	○ 願いを美しく絵柄で表すために、中心になる絵柄と周りの絵柄を組み合わせ表現していくことを伝える。 ○ ウェブピングしてでたそれぞれの言葉を絵柄にさせ、だるまデザインに取り入れる絵柄の発想を広げさせる。 ○ 絵柄の繰り返しや対称の配置、形のグラデーション、重ね合わせなど、中心と全体のバランスを考えた画面構成をだるまデザインに取り入れた作例を提示し、中	○ 絵柄の組み合わせ方を工夫して、自分の願いや美しさを考えたアイディアスケッチを描く。 ＜発想・構想＞ （活動観察・ワークシートの記述分析）

	ッチにまとめる。	心と全体のバランスを考えて、アイディアスケッチが描けるようにする。	ートの分析)
4	○ 願いを効果的に表すための配色を考え、アイディアスケッチに着色する。 ○ 絵柄の下描きをする。	○ 色の組み合わせを工夫して、自分の願いを効果的に色で表すことができるように、暖かい・寒い、軽い・重い感じ等の色の組み合わせ、色相や彩度の色の対比の効果を説明し、それらを応用しただるまデザインの配色例を提示し、自分の願いのイメージに合った配色ができるようにする。 ○ 曲面に合わせアイディアスケッチを微調整して、下描きができるように、平面に描いたアイディアスケッチとだるまの曲面に描かれた下描きを比べ微調整した部分分かるように提示する。	○ 色の組み合わせ方を工夫して、自分の願いや美しさを考えた配色を計画する。 <発想・構想> (活動観察・ワークシートの分析) ○ 全体のバランスや美しさを考えて、だるまに表現する絵柄の下描きをする。 <技能> (活動観察・作品の分析)
5 6 7	○ 絵柄の彩色をする。	○ 美しく彩色することができるように、絵の具を溶く水の量や混色、筆使いなどのポスターカラーの扱い方や曲面での筆先の運び方を教師が示範する。 ○ 彩色面の広いだるまの背中部分から彩色を進め、絵の具のだるま表面への浸透具合を確認させ、だるまへの彩色に慣れさせてから細かな絵柄を彩色させるようにする。	○ ポスターカラーの特性を理解し、扱い方を工夫して、美しく彩色する。 <技能> (活動観察・作品の分析)
8	○ 生徒同士で作品を鑑賞してよさを味わう。	○ 自分の活動を振り返り、だるまに込めた願い、絵柄の説明、絵柄の組合せや色の選び方の工夫点、彩色の工夫点、完成しただるまから感じるよさ、どこに飾るかを考え、ワークシートに記入させる。 ○ ワークシートに記入した制作の意図などを発表させ、友達作品のよさを認め合い、気付いたよさを賞賛し合えるようにする。	○ 自分や友達の作品のよさを見付け、伝え合う。 <鑑賞> (活動観察・ワークシートの分析)

V 本時の学習 (第1 / 8時の学習)

(1) ねらい

高崎だるまの色や形を見て、その理由を考え、よさや美しさ、表現の工夫を感じ取る。

(2) 準備

(教師) 高崎だるま、高崎だるま写真(グループ数)、ワークシート、付箋、完成作品の例

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
15分	○ 課題「高崎だるまのよさを考えよう」を知る。 ○ 高崎だるまを見て、自分がよいと感じたことや疑問に思ったことをワークシートに書く。	○ 数名の生徒の手に高崎だるまを取らせ、重みや触感などを発表させ、材質や重さの感じが生徒全体に伝わるようにする。 ○ 高崎だるまは、約200年前から、高崎市でつくり続けられてきたことを伝え、本時のねらい「高崎だるまのよさを考えよう」を提示し見通しをもたせる。 ○ 色・形・絵柄の三つの視点を提示し、高崎だるまのデザインのよさを考えられるようにする。 ○ 感じたこと疑問に思ったことを数名に発表させ、友達の見方や感じ方が分かるようにする。

		<p>○ 机の間を回り、生徒がよいと感じたことや疑問に思ったことを把握し、発表を促し、様々な感じ方があることを全体に気付かせるようにする。</p> <p>● よさや疑問が見付からない生徒には、だるまを間近で見させて、印象的な部分を訪ね、そこからよさや疑問を見付けられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">＜予想される生徒の考え＞</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>○ よいと感じること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤い色がよい ・ 眉と髭がよい ・ 丸い形がよい ・ 赤と金色の組み合わせがよい ・ 文字が金色でよい ・ 文字の言葉がよい </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>○ 疑問に思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ赤いのか ・ なぜ目がないのか ・ なぜ手足がないのか ・ なぜ丸いのか ・ 顔の模様は何だろう ・ なぜ文字が書いてあるのか </td> </tr> </table> </div>	<p>○ よいと感じること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤い色がよい ・ 眉と髭がよい ・ 丸い形がよい ・ 赤と金色の組み合わせがよい ・ 文字が金色でよい ・ 文字の言葉がよい 	<p>○ 疑問に思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ赤いのか ・ なぜ目がないのか ・ なぜ手足がないのか ・ なぜ丸いのか ・ 顔の模様は何だろう ・ なぜ文字が書いてあるのか 	
<p>○ よいと感じること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤い色がよい ・ 眉と髭がよい ・ 丸い形がよい ・ 赤と金色の組み合わせがよい ・ 文字が金色でよい ・ 文字の言葉がよい 	<p>○ 疑問に思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ赤いのか ・ なぜ目がないのか ・ なぜ手足がないのか ・ なぜ丸いのか ・ 顔の模様は何だろう ・ なぜ文字が書いてあるのか 				
15分	<p>○ 赤い色、眉や髭の形、文字について、よさや疑問を感じている意見に着目し、なぜそのように表現されているのか理由を考える。</p>	<p>○ だるまをつくる人の考えだけでなく、購入する人の感じ方も考えてその色や形になっていることを伝え、購入する人の感じ方も考えられるようにする。</p> <p>○ 自分の考えを、一つずつ付箋に記入させ、グループの意見交換の際にその付せんを使って、メンバーの考えが整理できるようにする。</p> <p>● 考えがでてこない生徒には、赤から自分がどんなイメージを受けるかなど問いかけ、そこから受ける自分のイメージを考えられるようにする。</p> <p>◎ 様々な考えが記入してある生徒は、考えのよい部分に赤ペンなどでアンダーラインを付け、具体的に賞賛し、さらに意欲的に取り組めるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">＜予想される生徒の考え＞</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>○ 赤い色の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おめでたい感じが願いに合う ・ 熱い感じが願いに合う ・ 目立つので ・ やる気にさせるから </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>○ 眉と髭の形の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 迫力を出し目立たせる ・ 力強く見せたいから ・ 顔を引き立てたいから </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>○ 文字の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字を入れた方が願いが叶う ・ 願いが分かりやすいから </td> </tr> </table> </div>	<p>○ 赤い色の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おめでたい感じが願いに合う ・ 熱い感じが願いに合う ・ 目立つので ・ やる気にさせるから 	<p>○ 眉と髭の形の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 迫力を出し目立たせる ・ 力強く見せたいから ・ 顔を引き立てたいから 	<p>○ 文字の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字を入れた方が願いが叶う ・ 願いが分かりやすいから
<p>○ 赤い色の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おめでたい感じが願いに合う ・ 熱い感じが願いに合う ・ 目立つので ・ やる気にさせるから 	<p>○ 眉と髭の形の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 迫力を出し目立たせる ・ 力強く見せたいから ・ 顔を引き立てたいから 	<p>○ 文字の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字を入れた方が願いが叶う ・ 願いが分かりやすいから 			
	<p>○ グループで考えを伝え合う。</p>	<p>○ グループごとに高崎だるまの写真を配布し、間近に見せたり、指し示したりしながら意見交換ができるようにする。</p> <p>○ グループでの意見交換の仕方と気を付けることを確認して、短時間で多くの意見が交換できるようにする。</p> <p>※意見交換の仕方、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを発表し、付箋を写真余白に貼付する。 ・ 考えた理由ごとに付せんを寄せて貼付し、それぞれの考えを整理して分かるようにする。 ・ 全員の発表が終わったら、友達の発表を聞いて、気が付いたことや考えたことからさらに考えを広げ、付箋を貼付し伝え合う。 			
10分	<p>○ グループで出た考えを発表し合う。</p>	<p>○ グループごとに、付箋を貼付した写真を掲示しながら、出た考えを発表させ、全体で考えを共有し、新たな気付きや友達と自分</p>			

		<p>の考えの共通点が分かるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループが発表で使っただるまの写真は順次、黒板に掲示していき、それぞれのグループの考えを合わせて見られるようにする。 ○ 教師が、発表された考えを整理し、必要に応じて情報を伝え、だるまの色や形には、思いや願いを叶えたいという気持ちが表されていることを理解できるようにする。 ○ 様々な考え方や感じ方ができたことを賞賛し、活動を振り返ることができるようにする。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の感想を記入する。 ○ 表現課題「自分の願いを絵柄で工夫して表し、だるまに美しく表現する」をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業を振り返り、本時の感想をワークシートに記入させる。 ○ 完成作品の例を提示しながら、次時からの表現課題を伝え、見通しをもたせる。 ○ 自分が、だるまに絵柄で表現したい願いを考えさせ、必要な資料やスケッチを用意しておくように伝える。

V 本時の学習（第2／8時の学習）

(1) ねらい

自分の願いをだるまにデザインするための中心になる絵柄を単純化や強調しながら考える。

(2) 準備

（教師）ワークシート、完成作品の例、単純化や強調を取り入れた作例、白色だるま（生徒の表現用）、デジタルカメラ

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の学習を振り返る。 ○ 表現課題「自分の願いを絵柄で工夫して表し、だるまに美しく表現する」と本時のねらいをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高崎だるまの色や形に人々の思いや願いが表れていたことを確認し、そのよさを生かした表現の発想・構想ができるようにする。 ○ 表現課題を伝える際に、高崎だるまに色や形を使い願いを託すよさを生かして、自分の願いをだるまに表し、自分の願いを託す新しいだるまをつくりだすことを伝え、表現への意欲を高められるようにする。 ○ 完成作品の例を提示し、そこに表された願いや中心になる絵柄とその周り絵柄の組み合わせで願いを表現することを説明し、表現に見通しを持てるようにする。 ○ イラストで表現された例とシルエットで表現された例の2つの完成作品の例を提示し、自分のイメージに合った表現形式を選択できるようにする。 ○ 白色だるまを手渡し、間近に見させたり、触らせたりして、大きさ、形、表面の凹凸や質感などを確認させ、それらに合った表現の発想・構想ができるようにする。 ○ 制作カードを使い、大まかな制作の計画を伝え、見通しを持って制作ができるようにする。 ○ 本時のねらいを提示し「自分の願いを表す中心になる絵柄を工夫して表す」をつかむことができるようにする。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ だるまに表現したい願いを決め、作品の題を考え、自分の願いを中心にウェッピングして、イメージを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に考えただるまに込めたい自分の願いを基に、自分の頑張りたいことから願いを決めるように伝え、自分の夢や希望を主題にすることができるようにする。 ● 自分の表現したい願いが出てこない生徒には、学期の始めに学級活動で考えた目標や、熱中していることや困っていることなど

		<p>を思い起こさせ、そこから願いを考え出せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の願いを基に作品に題を付けさせ、自分の表したい願いを明確にして、発想・構想ができるようにする。 ○ ウェッピングを使い、言葉で自分の願いのイメージを広げ、その言葉を手がかりにして、絵柄を考えていくことを伝える。 ○ 教師が示範して、ウェッピングの仕方を理解できるようにする。
25分	○ 中心になる絵柄を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェッピングして出た言葉を見直させ、それを基に中心に描く絵柄を発想できるようにする。 ● 絵柄のアイデアが出てこない生徒には、ウェッピングを見直し、絵柄にしたいものをいくつか選択させ、それらを絵柄で表現してみるようにアドバイスする。 ○ まず10分程度で、1～2個の絵柄の案を描くように指示し、その後、絵柄の単純化や強調のコツを教師の用意した作例を提示して理解させ、単純化や強調を絵柄に取り入れることができるようにする。
5分	○ 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の描画した絵柄をデジタルカメラで撮影し、大型の画面に映し出し、必要な部分を拡大するなどして、よさを具体的に説明し、一人一人が本時の学習の成果を振り返る際の目安を持てるようにする。 ○ 制作カードに、本時の授業の成果や感想を記入させ、自分の活動を振り返ることができるようにする。 ○ 次時の活動を伝え、見通しがもてるようにする。

V 本時の学習（第3／8時の学習）

(1) ねらい

絵柄の組み合わせ方や配置の仕方を工夫して、だるまデザインのアディアスケッチを描く。

(2) 準備

（教師）絵柄の組み合わせ方を示した作例、ワークシート、デジタルカメラ （生徒）白色だるま

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
5分	○ 前時の学習を振り返り本時のねらいをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に生徒が描いた絵柄を拡大提示し、活動内容を振り返らせる。 ○ 本時のねらいを提示し「絵柄の組み合わせ方や配置の仕方を工夫して、だるまデザインのアディアスケッチを描く」をつかむことができるようにする。 ○ 自分の願いを絵柄で美しく表現できるように、中心になる絵柄の回りにさらに絵柄を加えることを伝える。
10分	○ 前時のウェッピングで出た言葉を描画して表す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウェッピングで出た言葉を絵柄で描画させ、それらを取捨選択しながら、アディアスケッチにまとめるようにする。 ● 言葉を絵柄で描画できていない生徒には、参考になる友達の描画例を紹介し、それを参考にして描画を進めることができるようにする。
30分	○ 絵柄を組み合わせ、だるまデザインのアディアスケッチを描く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料集を使い、絵柄の繰り返しや点対称、線対称の配置、形のグラデーション、重ね合わせなどの効果について伝え、それらをだるまデザインに利用した作例を提示し、中心の絵柄と回りの絵柄のバランスを考えて、アディアスケッチが描けるようにする。 ○ だるまの実寸大の正面図を配布し、だるまの大きさや形を考えて、

		<p>絵柄の大きさやバランスを調節してスケッチできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 絵柄が細かすぎ彩色が困難と予想される生徒には、完成作品の例を提示し、絵柄の大きさや細かさを確かめさせ、自分の絵柄が彩色できるかを検討させ、複雑な描画箇所を単純にしていくようにする。
5分	○ 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の描画をデジタルカメラで撮影し、大型の画面に提示し、必要な部分を拡大するなどして、よさを具体的に賞賛し、一人一人が本時の学習の成果を振り返る際の目安を持てるようにする。 ○ 制作カードに本時の授業の成果や感想を記入させ、自分の活動を振り返ることができるようにする。 ○ 次時の活動を伝え、見通しがもてるようにする。

V 本時の学習（第4／8時の学習）

(1) ねらい

色の選び方や組み合わせ方を工夫して配色の構想を練り、だるまの曲面に合わせ調整しながら絵柄の下描きをする。

(2) 準備

（教師）デジタルカメラ、ワークシート、だるまデザインの配色例、だるまへの下描き例

（生徒）色鉛筆、白だるま、資料集

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
5分	○ 前時の学習を振り返り本時のねらいをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵柄の組み合わせ方に工夫の見られる生徒のアイディアスケッチを提示し、前時の活動内容を振り返る。 ○ 本時のねらい「色の選び方や組み合わせ方を工夫して色を決め、だるまに絵柄の下描きをする」を提示する。
8分	○ 配色の仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料集を使い、補色関係の色や、暖かい・寒い、軽い・重い感じの色の組み合わせ、色相や彩度での色の対比を説明し、それらを活用しただるまデザインの配色を作例で提示し、自分の願いのイメージに合った配色の構想を練ることができるようにする。 ○ スケッチの対象となる物の実際の色にこだわらずに色を決めるように伝え、自分の願いに合った色や全体の色調を考えた色を選択できるようにする。
12分	○ アイディアスケッチに色鉛筆で色を付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色をつける前に、「明るくさわやかな感じ」「淡くやさしい感じ」など、だるまデザインの配色のイメージを言葉で表させ、表したい色の感じを基に配色の構想を練ることができるようにする。
5分	○ 下描きの仕方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の平面に描いたアイディアスケッチとだるまの曲面に描かれた下描きの例を提示して比較し、曲面に合わせアイディアスケッチを微調整していることを伝え、アイディアスケッチを微調整しながら下描きができるようにする。 ○ 下描きの際のだるまの持ち方の例を示し、だるまを安定させて丁寧な描画ができるようにする。 ○ 中心になる絵柄から下描きし、実際のだるまの曲面にあわせて回りの絵柄を配置して描くように伝え、曲面上での見え方を考えて、中心の位置や大きさ、全体とのバランスを考えた下描きができるようにする。 ○ 新しい考えがでたり、自分のイメージと合わない場合は、アイディアスケッチ通りに描画しなくてもよいことを伝え、さらに構

		想を深めることができるようにする。
15分	○ だるまに鉛筆で絵柄の下描きをする。	● 絵柄の大きさや配置が思うようにいかない生徒には、アイデアスケッチを確認し、大まかな絵柄の位置や大きさをだるまにするし、それを基に描画できるようにする。 ◎ アイデアスケッチを基にさらに構想を練り、絵柄の大きさや配置などに工夫をしている生徒は、工夫点を具体的に賞賛し、さらに意欲を高めて取り組めるようにする。
5分	○ 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	○ だるまの曲面にバランスよく下描きしている生徒やアイデアスケッチにさらに工夫を加えた生徒の作品をデジタルカメラで撮影し、大型の画面に映し出し、アイデアスケッチと比較するなどして、よさを具体的に賞賛し、一人一人が本時の学習の成果を振り返る際の目安を持てるようにする。 ○ 制作カードに本時の授業の成果や感想を記入させ、自分の活動を振り返ることができるようにする。 ○ 次時の活動を伝え、見通しがもてるようにする。

V 本時の学習（第5／8時の学習）

(1) ねらい

絵の具を溶く水の量や混色、筆使いなどポスターカラーの適切な扱い方を復習して、自己の意図にあった色をだるまの背中面に彩色する。

(2) 準備

(生徒) アイデアスケッチ、ポスターカラーセット、白色だるま

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
5分	○ 前時の学習を振り返り本時のねらいをつかむ。	○ 前時に配色した生徒のアイデアスケッチを拡大提示し、活動内容を振り返る。 ○ 本時のねらい「ポスターカラーを使い、だるまの背中を彩色する」を提示する。
10分	○ ポスターカラーの使い方を確認する。	○ 教師が示範しながら、絵の具を溶く水の量や混色、筆使いなどのポスターカラーの適切な扱い方を復習して、自己の意図にあった色を適切に彩色できるようにする。
30分	○ だるまの背面を彩色する。	○ 彩色面の広いだるまの背中部分から彩色を進めさせ、曲面で凹凸のあるだるまの彩色に慣れ、美しく彩色するコツをつかむように伝え、正面部の絵柄で細かな彩色ができるようにする。 ○ だるまの安定した固定の仕方、曲面での筆先の運び方、絵の具のだるま表面への浸透具合に特に注意して彩色することを伝え、次のだるま正面部分での細かな彩色に順応できるようにしておく。 ○ 彩色の面積を考え、途中で混色した絵の具が、足りなくなることがないように十分な量の絵の具を溶いておくように伝える。 ○ 絵の具の付いた指でだるまの顔などに触れて、汚さないように配慮させる。 ● ポスターカラーの扱い方の理解が不十分な生徒には、個別に確認や演示、補助することで、表現意図にあった彩色ができるようにする。
5分	○ 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	○ 美しく彩色された生徒のだるまを提示し、よさを具体的に賞賛し、一人一人が本時の学習の成果を振り返る際の目安を持てるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作カードに本時の授業の成果や感想を記入させ、自分の活動を振り返ることができるようにする。 ○ 次時の活動を伝え、見通しがもてるようにする。
--	---

V 本時の学習（第6／8時の学習）

(1) ねらい

ポスターカラーを適切に扱い、自己の意図にあった色で、だるまの正面の絵柄を彩色する。

(2) 準備

（教師）デジタルカメラ （生徒）アイディアスケッチ、ポスターカラーセット、だるま

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
5分	○ 前時の学習を振り返り本時のねらいをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に背中面に彩色した生徒のだるまを紹介し、前時の学習を振り返る。 ○ 本時のねらいを提示し「ポスターカラーを使い、だるまの正面の絵柄を彩色する」をつかむことができるようにする。
40分	○ だるまの正面の絵柄を彩色する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画通りの配色で彩色しなくても良いことを伝え、良い考えが浮かんだり、思ったような効果が出ない場合には、表現の途中でも構想を練り直すことができるようにする。 ○ 生徒のだるまを例に取り上げ、効率よく美しい着色ができる彩色の順番を考えさせることで、作品の彩色手順を考えた彩色ができるようにする。 ● 表現意図に合った彩色ができない生徒には、ポスターカラーの扱い方を個別に確認や演示、補助することで、表現意図にあった彩色ができるようにする。
5分	○ 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的な彩色や丁寧な彩色がされているだるまをデジタルカメラで撮影し、大型の画面に映し出し、必要な部分を拡大するなどして、よさを具体的に賞賛し、一人一人が本時の学習の成果を振り返る際の目安を持てるようにする。 ○ 制作カードに本時の授業の成果や感想を記入させ、自分の活動を振り返ることができるようにする。 ○ 次時の活動を伝え、見通しがもてるようにする。

V 本時の学習（第7／8時の学習）

(1) ねらい

ポスターカラーを適切に扱い、自己の意図に合った色で、だるま正面の絵柄の彩色を完成させる。

(2) 準備

（教師）デジタルカメラ （生徒）ポスターカラーセット、だるま

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
5分	○ 前時の学習を振り返り本時のねらいをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に彩色した生徒のだるまを紹介し、本時の彩色手順を聞くなどする。 ○ 本時のねらいを提示し「ポスターカラーを使い、だるまの正面の絵柄を彩色を完成させる」をつかむことができるようにする。 ○ 本時が制作の最終時間であることを伝え、計画的に作業を進めることができるようにする。
40分	○ だるまの正面の絵柄を彩色	○ アイディアスケッチ通りの配色でなくても良いことを伝

分	する。	え、良い考えが浮かんだり、思ったような効果が出ない場合には、表現の途中でも構想を修正することができるようにする。 ○ 輪郭線の強調などで先細のペンを使っても良いことを伝え、美しい絵柄になるよう工夫できるようにする。 ● 表現意図に合った彩色ができない生徒には、ポスターカラーの扱い方を個別に確認や演示、補助することで、表現意図にあった彩色ができるようにする。
5分	○ 本時の活動を振り返り、次時への見通しをもつ。	○ 彩色に工夫のあるだるまをデジタルカメラで撮影し、大型の画面に映し出し、必要な部分を拡大するなどして、よさを具体的に賞賛し、一人一人が本時の学習の成果を振り返る際の目安を持てるようにする。 ○ 制作カードに本時の授業の成果や感想を記入させ、自分の活動を振り返ることができるようにする。 ○ 次時の活動を伝え、見通しがもてるようにする。

V 本時の学習（第8／8時の学習）

(1) ねらい

完成しただるまを見せ、制作の意図を発表し合い、自他の作品のよさを認め合い、表現の喜びを味わう。

(2) 準備

（教師）ワークシート、デジタルカメラ （生徒）だるま

(3) 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
5分	○ これまでの学習を振り返り本時のねらいをつかむ。	○ これまでの制作の過程を大型の画面に映し出して、取り組みの良い点などを賞賛し、これまでの自分の制作の過程を振り返らせる。 ○ 本時のねらいを提示し「完成しただるまを見せ合い、よさを認め合う」をつかむことができるようにする。
15分	○ ワークシートを使い制作を振り返る。	○ 込めた願い、絵柄の説明、絵柄の組合せや色の選び方の工夫点、彩色の工夫点、完成しただるまから感じるよさ、どこに飾るかをワークシートに記入させ、制作の過程を振り返り、発表の内容をまとめることができるようにする。
10分	○ グループに分かれ、ワークシートを基に作品の説明をし合い、気付いたよさを伝え合う。	○ 4人程度のグループに分かれ、順番に一人ずつ制作の意図を発表し合い、友達の作品のよさを見つけて伝え合うことを説明し、よさを認め合い賞賛し合うことができるようにする。 ○ よさの伝え合いでは、ワークシートに記入した振り返りの項目を参考にさせることで、様々な視点からの良さに気付き、伝え合うことができるようにする。
20分	○ 学級全体の作品を見て回り、他者の作品の良いところを記入したカードをおくり、題材全体を振り返る。	○ 作品だけでなく、振り返りのワークシートも合わせて見るように伝え、制作の過程や作者の考え方のよさも含めて、友達の作品のよさを見付けることができるようにする。 ○ 最初のカードは、隣の席の生徒に渡し、その後、学級全体の作品を見て回るように伝え、全員の生徒が、カードをもらうことができるようにする。 ○ 自分が発表して感じたことや、友達の作品を見て感じたことなどをワークシートに記入し、本時を振り返ることができるようにする。